



<連載(119)>

## カリブ海クルーズ視察記



大阪府立大学海洋システム工学科教授

池田 良穂

**海外の** 海運事業の視察を毎年1回のペースで実施している。やはり、海外での事業としての成功例を実際に目で見て、その成功要因をさぐることは、今後の日本の海運、造船の発展のシナリオを描く上で欠かせない。

現在までに、カリブ海クルーズ(3回)、バルト海クルーズフェリー(2回)、欧州高速カーフェリー(2回)等の視察旅行を実施し、海運会社や造船所の方々とともに貴重な経営・技術情報の収集や乗船体験を重ねてきた。参加した方からは「先生の視察旅行は、本当に勉強する旅行なのですね」などと驚かれたこともある。業界の視察旅行の中には、慰安旅行の中に一部視察も含まれるというものもあるらしく、そのつもりで参加した人からの驚きの声であった。

**視察を** 組む時には、かなり慎重に視察先を決める。将来性のありそうな事業を選ぶことはもちろんであるが、その事業において今といったいなにが重要なのか、大きな変化をす

る予兆があるか、等々を熟考した上でスケジュールを立てる。

カリブ海クルーズについては、日本も10年前にクルーズ元年を迎えて、本格的なクルーズ市場の拡大を目指した頃に3回行った。その頃、カリブ海は7万トン型のクルーズ客船が姿を現わして、市場が一気に拡大しはじめている頃であった。この時には、カリブ海クルーズ運航会社の首脳とも会うことができ、カリブ海でのクルーズ事業の成功ポイントについてかなり詳細な話を聞き、さらに資料も入手することができた。続いて、カリブ海クルーズは、3日および4日の短期クルーズを育成して、若い層を取り込む方策にでた。この時にも、視察を組んで短期クルーズの現状を見てまわった。こうした視察で実感したことが、現在の筆者のクルーズ産業に対する基本姿勢をかたちづけている。このことについては、本連載においても、また他の紙面においても、幾度も書かせていただいているが、なかなか日本では実現することが難し

く、日本のクルーズ市場の成長はなかなか華々しくは拡大していない。

ということもあって、クルーズに関してはおあずけの状態にして、最近の筆者の興味はもっぱら高速カーフェリーに移っており、この2年間ほどは欧州への高速カーフェリー事業の視察に集中していた。

しかし、最近になってカリブ海のクルーズ産業が新しい兆候を見せ始めているのに気が付いた。それは10万トンを超える超大型クルーズ客船の投入によるクルーズ市場の爆発と、ディズニーが家族連れ層をターゲットにしたクルーズ事業の開始によるクルーズ市場の拡大である。これは、ぜひとも実際にこの目で見しておく必要があると考えて、今年の視察旅行は「カリブ海の超大型クルーズ客船」に決めた。

**加希望者**を募ると、カーフェリー会社およびレストラン船運航会社から参加の意向が寄せられた。さっそく、旅行会社を通して、



10万トン型 グランド・プリンセス  
(後方は15,000トン型客船)

現在世界最大のクルーズ客船「グランド・プリンセス」の船席を押えることとした。旅行の4ヶ月前であったが、同船は約半年先まで予約が詰まっているとのことで、取り合えずキャンセル待ちでキャビンを押える努力をすることとした。待つこと1ヶ月半、ようやく3キャビンが確保でき、計5名での視察旅行が実現することとなった。

同船は、10万9千トン、旅客定員2600名の大型船で、今春イタリアの造船所で完成し、プリンセス・クルーズに引き渡されたばかりの新鋭船である。完成後、夏の間は欧州水域のクルーズに就航していたが、10月からフロリダ半島のフォート・ローダーデイル起点の1週間カリブ海クルーズに就航している。

**乗船した**クルーズには、2703名の乗客が乗船していた。もちろん全キャビン満室状態で、3人以上でキャビンを使っている人も結構いるらしい。クリスマス・シーズンには、3000名を超える乗客が乗船してくる予定とか。2人使用での旅客定員が2600名、最大旅客定員は3200名とのことであった。

前述のように、北米では、映画タイタニックのヒット、10万トン型超大型クルーズ客船の登場、ディズニー・クルーズの運航開始等の影響で、各クルーズ会社は活況を呈しており、主要クルーズ会社の船は軒並み満室状態が続いており、業績は絶好調とのこと。

こうした中で、競争力を失ったクルーズ会社を吸収する形での寡占化が急速に進んでお

り、カーニバル、ロイヤル・カリビアン・クルーズ、プリンセス (P&Oグループ) の3社がビックスリーと呼ばれるに至っている。最近では、名門キュナードとコスタ・クルーズの両社がカーニバルの傘下に、ギリシア系のセレブリティ・クルーズがロイヤル・カリビアン傘下に入っている。北米市場におけるシェアは、カーニバルが35%、ロイヤル・カリビアンが25%、プリンセスが11%となっており、ビックスリーが全体の70%強を占めるに至っている。

今年の消席率を見ると、カーニバルは108%、ロイヤル・カリビアンが104%、プリンセスが99%と、ほぼ満船状態が続いている。採算分岐点は70~80%と見られているから、

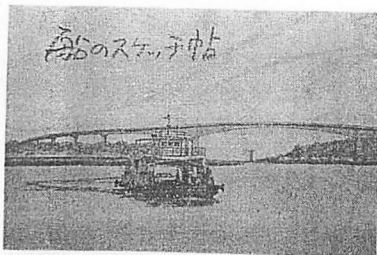
満船を維持することによってかなりの利益を挙げるといっている。因みに、カーニバルの本年前半6ヶ月の純利益は約324億円(1ドル120円換算)で前年度比で27%の増加、ロイヤル・カリビアンは約188億円で104%の増加という。

現在カーニバルは34隻のクルーズ客船を運航し、ベット数で4万床、ロイヤル・カリビアンは17隻で3万1千床、プリンセスは11隻で1万5千床となっている。事業規模の拡大なしには、苛酷な競争の中で生き残っていけないというのが実情のようだ。

次回からは、「グランド・プリンセス」でのカリブ海クルーズについて紹介することとしたい。

## 好評発売中

### 客船ファン待望の“船のスケッチ帖”発行——



製作発行・「月刊・公団船」海交新社

イラストレーター／小林義秀・岩瀬玄海(本誌で連載中)

《発行》 平成4年5月

《体裁》 B6判 約350頁 豪華装丁

《内容》 1頁に1隻掲載

(全景のイラスト及び主要目とコメント)

イラスト航路図

《頒価》 3,500円(税・送料別)

《郵便振替口座》 神戸5-20356 名義/旬海交新社

※お申込みは 「月刊・公団船」海交新社

〒650 神戸市中央区海岸通4-3-13 ポートビル502

TEL(078)362-6982 FAX(078)362-6878